

第48号  
2018年9月発行

【発行元】  
港区芝地区総合支所協働推進課  
発行部数30,000部

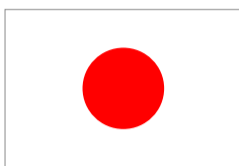
# 芝地区地域情報誌

MINATO CITY

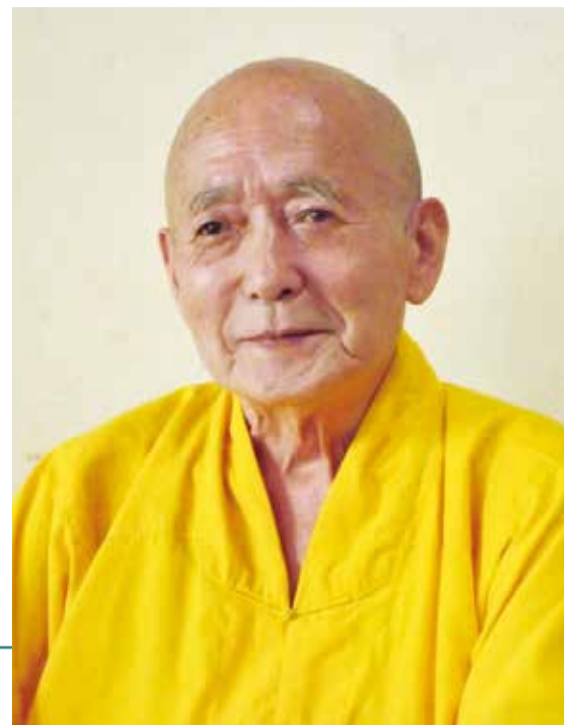


『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

## VOICE 芝人



## ベトナムとの友好の架橋



ベトナム服の吉水大智師

にしんくつ 日新窟住職 吉水大智師

今年6月1日、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、明治記念館で開催された「ベトナム・日本外交関係樹立45周年記念式典」において、ベトナム社会主義共和国国家主席チャン・ダイ・クアン氏より日新窟の住職である吉水大智師に友誼勲章(外国人に対する勲章では最高位の勲章)が授与されました。

を果たすと、巡回した各地で戦没者の供養、法話を行いました。



サイゴン(現ホーチミン市)での花まつりに参加



上はベトナム国家主席より賜った友誼勲章と賞状。左は梅田邦夫在ベトナム日本国大使夫妻(左)と、秘書役のタム・チー師(右)



ホーチミン市の普光寺にて、千人信徒の前で説法

### ベトナムとの縁

吉水師は昭和16年(1941)、日新窟住職齊藤実明師の5男として芝公園で生まれ、僧籍の道へと進みました。

増上寺で浄土宗の僧籍を獲得するために加行しているとき、ベトナムから修学に訪れていた積心覚師と兄弟のように親しい間柄となりました。積心覚師が修学を終え、母国に帰る頃には、ベトナム戦争が始まっていました。

是非にとの誘いを受けて、吉水師は23歳の時に初めてベトナムを訪れました。このころはベトナム人さえ危険な状況だったにもかかわらず、2か月にわたり実情を見て回り、人々を励まし、僧侶たちと交流を重ねて強い絆を結びました。その後、戦況は厳しくなり、訪越が困難になりました。(※漢字でベトナムは越南と表記)

昭和40年(1965)、父の初代齊藤実明師の逝去に伴い、日新窟の二代目の住職に就任。昭和50年(1975)、ベトナム戦争終結後によりやく再訪越

平成7年(1995)、膵臓がんを患い、ロサンゼルスで手術。帰国後、旧友の勧めによりベトナムで療養します。ベトナムの暖かい気候と人々との温かなつながりのなかで健康を取り戻していきます。以後、毎年ベトナムの花まつりに出席。また少数民族への慈善活動の支援や各寺院での法話、大学での講義を行うため、隔月で訪越し、全国を巡回しました。

平成13年(2001)、寺の敷地を利用して芝公園タワーを完成させました。その後、その一部に日新窟の本堂を再建します。

大智師70歳の誕生日、ベトナムから平和と友好の絆の印として求道像等が贈られ、完成したばかりの積迦堂、阿弥陀堂とともに落成法要が営まれました。その翌年、吉水師はハノイ市の平和公園で桜の植樹祭に参加し、500本の桜を提供します。現在までに約1500本の日本の桜がベトナム各地に植えられています。

平成23年(2011)、東日本



平成13年(2001)に完成した芝公園タワー。右下に日新窟がある

大震災の5日後には東北地方に住んでいたベトナム人の留学生、研修生ら84人を日新窟に受け入れ、ベトナム大使より感謝状を授与されています。

その後、積極的に日本とベトナムとの交流に努めています。ベトナムからの「よさこいチーム」の受け入れ、日越友好の花まつり、座禅会、茶道教室、書道教室、年中行事などの日本文化学習等を通じ、在日24万人のベトナム人の心の拠り所を創るため、いまなお尽力されています。



書道教室、茶道教室の様子

文・写真:米原 剛  
写真資料提供:日新窟

### Information

日新窟  
芝公園 2-11-1  
TEL 03-5401-0566

#### ベトナムに同行した師の友人より

今回の受章おめでとう。ベトナム戦争の最中に命をかけて仏教の布教を行い、ベトナム国民の幸せのために努力してきたことが評価されたと思います。この受章は同級生の誇りであり、港区民にとっても名誉なことだと思います。

必ずしも体調は万全でないにも拘らずベトナム訪問を継続する精神力は、増上寺でともに修行した積心覚師の遺志を継ぐという強い意志から生まれてくるのでしょうか。今後も体調と相談しながら、活動を継続して頂きたいと思います。

取材・協力:杉原 俊雄(桜川小学校・愛宕中学校同期生)

# 三田に移転し、30年目を迎えるハンガリー大使館

ハンガリー大使館と

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラの

## 素敵な音楽交流

平成30年(2018)6月28日、慶應義塾大学三田キャンパス北館ホールにおいて、ハンガリー大使館と慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラ主催の『2017/2018 V4ハンガリー議長国クロージング・コンサート』が開催されました。V4とはヴィシェグラード・グループのことで、中央ヨーロッパに位置するポーランド、チェコ、スロバキア、そしてハンガリーの各国の友好と協力関係のさらなる発展を目指すもの。この国際的かつ特別な演奏会の存在を、より多くの方々に知っていただきたく、取材いたしました。

この演奏会で特筆すべき点は、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラの室内楽メンバーが参加していること。今回は世界的ピアニスト、ファルカシュ・ガーボル氏との共演を果たしました。ファルカシュ氏は、演奏活動とともに、ハンガリー人作曲家兼ピアニストであるフランツ・リストの知られざるピアノ楽曲を紹介する使命にも燃えている人物。



演奏会に参加したピアニストのファルカシュ・ガーボル氏。1981年生まれ、2005年ブダペスト・リスト音楽院卒業。2014年に同音楽院博士号取得。2015年ニューヨークコンサートアーティスト&アソシエイト主催コンクールにおいて最優秀賞を受賞し、2016年にはカーネギーホールにてデビューリサイタルを行う

一方、世界的な演奏家との共演を果たした慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラ、通称ワグネルオケとは、明治34年(1901)に三田で発足した日本最古の学生アマチュアオーケストラです。年3回の定期演奏会を日本有数の指揮者を迎えて行っているほか、4年に一度は訪欧公演も行っています。基本的に学生たちの手によって運営され、また多くの卒業生たちも支援を惜しまないという、伝統と絆を感じさせるオーケストラです。現在は主に日吉校舎で活動を行っていますが、今回は発足の地での演奏会となりました。

今回の演奏会ではV4各国の4作品を1時間半に渡り、たっぷり聴かせていただきました。ファルカシュ氏は若々しさたっぷりのワグネルオケ・メンバーのさわやかな演奏を尊重しながらも、中欧の確固たる響きを三田の地に轟かせていました。

この特別演奏会開催の経緯は、音楽での交流の場として、パラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー大使がワグネルオケの会長である塩澤



左は若きハンガリー大使パラノビチ・ノルバート氏、右はスロバキア大使マリアン・トマーシク氏。ハンガリー語は欧州において難しい言語のひとつに挙げられる。そんな言語を操る彼らにとって日本語は修得しやすいうことで「流暢な日本語を話すハンガリー人が増えています」とは大使館職員の話。その証のように、大使も美しい日本語を話す。ハンガリー人の名前は日本人と同じく苗字が先に来る姓名順

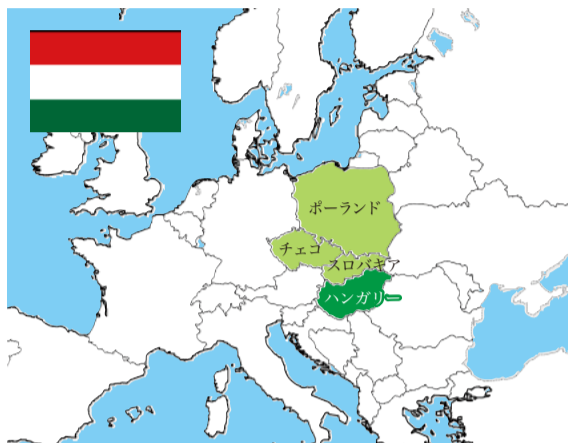
修平教授に演奏会の企画を提案したこと。とんとん拍子に話が進み、今回の実現となりました。ハンガリーは平成元年(1989年)から慶應義塾大学三田キャンパスの隣に駐日大使館を置いており、そうした“お隣さん”としてのコミュニティも共催の理由のひとつになったようです。

パラノビチ駐日大使は港区に長く暮らしており、日本語が堪能で、名古屋大学では客員講師として、また特派員としても活躍されていました。食べられる国宝・マンガリツツア豚をアジア市場に初めて紹介するなど、日本におけるハンガリーの知名度向上に尽くした功績が評価され、平成28年(2016)、民間からの起用により大使に任命された、39歳の若き大使です。

三田に移転してからの大使館の歴史を知る職員の方は「ハンガリーは中央ヨーロッパで唯一アジアにルーツを持ち、超親日国です。大使館の隣に慶應さんもあることで、地域の交流は友好的かつ積極的にさせていただいております」と話してくれました。

今回の演奏会をきっかけに、三田の地に根差しているハンガリーという国と、コミュニティを生かしたさまざまな国際交流の場が生まれることを期待しています。

取材・文：田岡 恵美



ヴィシェグラード4(V4)の議長国はチェコ、ポーランド、ハンガリー、スロバキアの順で毎年6月に交代する。今回の演奏会は2017-2018年の議長国であったハンガリーからスロバキアへと交代することを記念し、「2017/2018 V4ハンガリー議長国クロージング・コンサート」と銘打ち、開催された



左からピアニストのファルカシュ・ガーボル氏、ハンガリー大使パラノビチ・ノルバート氏、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラ会長の塩澤修平教授

### Information

ハンガリー大使館

三田 2-17-14

TEL 03-5730-7120

■慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラのホームページ  
<http://www.wagner-society.net>



演奏曲はリスト(ハンガリー)、ヤーン・ツィツケル(スロバキア)、ドヴォルザーク(チェコ)、ショパン(ポーランド)と、ヴィシェグラード四か国(V4)の作品が選ばれた。こうした選曲もユニークだ(写真はリハーサル中の風景)

# お芝の老舗

世襲九代目女将の繁盛記

## 「玉木屋」

新橋・昭和通り交差点に面した「新橋玉木屋本店」。天明2年(1782)創業の佃煮・煮豆の老舗です。初代の田巻七兵衛は、越後南蒲原郡通称玉木村(現・新潟県南蒲原郡田上町)の出身。江戸片側町(現在の新橋一丁目)に店を構え、郷里の名から屋号を「玉木屋」とし、家伝の「座禅豆」を売り出しました。平黒豆を固めに煮た「玉木屋の座禅豆」の深い味わいが江戸町民の間で流行。その後三代目が新橋に近い佃島で漁師の保存食であった小魚を煮た佃煮に出会い、「玉木屋の佃煮」が誕生します。玉木屋は有名店となり、連日店の前に客が長い列を作りました。伝統を守りながら、時代に合った商品を次々と開発し続けている九代目の田巻章子さんにお話を伺いました。

### 主婦の発想が守る老舗の味 涙の日々



女性は仕事より、結婚して、良い母になることを求められていた昭和40年代。創業家玉木屋に嫁いだ章子さんは、江の島の自宅で専業主婦をしていました。

ある日、先代に呼ばれて店のある新橋に向くと、「会社に入ってほしい」と言われます。突然のことで返事もできず、時間ばかりが過ぎていきました。湘南電車の最終時刻が迫るなか、思わず「わかりました」。そう返答したものの、迷い続けた章子さんに、専業主婦から九代目への棘の道を歩む覚悟をさせたのは、当時小学6年生だった息子さんの一言でした。

「権利は義務を果たした者が貰えるものでしょう。お母さんはその義務を果たした方がいいよ」

厳しく育ててきた息子さんの言葉に頷き、江の島から新橋への通勤を決意しました。

当時はご主人の従弟が番頭で会社を取り仕切っていました。初入社前、その従弟が自宅まで訪ねてきました。「若奥さん、本当に仕事がし



たいのですか？ お子さんの面倒はどうするのですか」と問われましたが、「母の私が真剣に考えたことですから、ご心配なさらず」と切り返しました。

### たった一人の外商部

とはいえ、入社初日に通勤定期を申請すると「続くのかしらね」と言われます。周りの社員には「仕事は自分で覚えるものです」と突き放されました。会社員としての経験もなく、何から始めればよいのかわかりません。まずは「誰もしたくない仕事から」と、トイレ掃除を始めました。3か月後には庶務をはじめますが、レジロールの入れ替えばかり。新橋から江の島へ帰る電車の中では、涙がぼろぼろこぼれ、止まりませんでした。

それでも気丈にふるまい、1年後には「外商部」を一人で立ち上げます。会社の利益を上げるためというのはもちろんですが、もう一つ「会社にいたくなかったから」というのが大きな理由でした。外商部長となったものの、「会社から飛び込み営業禁止」、「会社関連者の紹介禁止」という条件を突き付けられたなかでの厳しい営業活動のスタートでした。営業に明け暮れていたある日、東京駅で空を見上げると、立派なビルが立ち並んでいました。「市場はこんなにいっぱいあるのに、私には行くところがない」と思うと、再び涙がこぼれました。



「座禅豆」の由来は、僧が座禅を組む際に食べたからという説や、原料のがんくい豆の形が座禅の組み足に似ているからという説がある。明治時代の作家永井荷風は自身の著書『断腸亭日乗』で玉木屋の名を挙げている

### 母の愛と革新力

しかし母は強い者。「子どもを置いてきているつらさに比べれば、仕事は全然つらくない」と、自分を奮い立たせます。百貨店一軒分の売り上げ目標を掲げ、小唄やゴルフを習いはじめ、



236年続く暖簾を守る九代目女将の田巻章子さん



本格的な料亭の味を家庭でも味わえるように開発された懐石茶漬。この「家庭でも」というところに、章子さんのこだわりが見て取れる

人脈作りや営業に役立てました。その努力は次第に周囲に認められ、そしてついに社長就任を果たします。棘の道を歩みながらも忘れなかったのは、「主婦の力」です。

一家計をやりくりすることは、会社の財務経営と同じ。家庭を守るのとは人事と同じ。献立を考えることは商品開発と同じ。台所は工場と同じ。

まずは自分で作ってみることを基本に新商品を次々に開発、ヒットを飛ばしました。冷蔵庫のない時代から保存食として伝わる座禅豆や佃煮は、現代人にとってはしょっぱ過ぎると思い、気づかれないように薄味にしていきました。すべての商品をまず家庭目線で作ってみる。そしてその味を社員に伝え、工場のラインに乗せて、商品として量産する。主婦ならではの発想で開発した商品は200種以上にもなりました。

そしていま、章子さんからこぼれる「笑顔」から、家庭を守る母の愛と、老舗を守り成長させる革新力を感じました。

取材：森 明/早川 由紀 文・写真：早川 由紀

参考文献：「明治商売往来 続」仲田定之助著(ちくま学芸文庫) 新橋玉木屋 Web サイト「玉木屋の歴史」(<http://www.tamakiya.co.jp/goannai.html>) 芝百年会 Web サイト「旦那・女将のとおき話」より「新橋芸者が愛した座禅豆」(<http://www.shiba-shinise.com/column/tamakiya01.html>)

### Information

新橋玉木屋本店

新橋 1-8-5

TEL 03-3571-2474



## 芝と讃岐の魅力を、 「東京さぬき倶楽部」で、 ぶらりと満喫

昭和47年(1972)、法政大学、国立能楽堂などを手掛けた建築家、大江宏(1913-1989)によって建てられた宿泊会館「東京さぬき倶楽部」。この名前には「首都圏および周辺に住んでいる人たちに、香川県の観光・産品・味覚・文化を『五感で体感』してもらおう場」という意味が込められています。その言葉どおり、ランチタイムには芝地区界隈のビジネスパーソンたちが、併設されたレストランの本場さぬきうどんを楽しんでいます。

今回は、そんな東京さぬき倶楽部の総支配人、川西幸司郎さんに取材協力をいただきました。「東京さぬき倶楽部」は、さまざまな香川県の魅力を体感できることに加えて、歴史的なみどころがあることにも注目です。

この場所は、武蔵野から東京湾に向かって伸びた幾筋かの台地の一つ、三田台の北端の傾斜地に位置しています。この台地上は、往古から街道が通じていたらしく、付近には鬼退治などの伝説をもつ平安時代の勇士、渡辺綱(953-1025)に由来する、綱坂、綱の手引坂などがあります。会館の敷地内には渡辺綱が尊崇したという「御田八幡宮の旧蹟」と伝承される個所を見ることができます。

豊かな緑に彩られた敷地内には、幾棟かの明治時代の建築物が残っています。その一つである別館一号館の「花樹海」は、元摂津尼崎城主、元櫻井子爵家のかつての所有地にあたり、明治20年(1887)ごろ、河手長平が邸宅を建てました。

現在、別館はレストランとして利用できる。明治時代の建築様式が堪能できる別館一号館「花樹海」



明治から昭和の前期にかけての官邸、藤田四郎の本邸の一部を移転した別館二号館。明治33年ごろの古民家を改装した建物「ばんげ」

当時の住宅建築の趣が良く残されており、たいへん貴重な歴史建物であることがうかがえます。そしてもう一つ、別館二号館の「ばんげ」は、時の農商務省長官、藤田四郎(1861-1934)の本邸の一部を移転したもの。同氏がこの土地を取得した明治33年(1900)ごろの建物と考えられており、近所の人々から紅梅屋敷と呼ばれていたという当時の面影を残す建物です。玄関口までのアプローチに和の雰囲気がよく伝わってきます。

明治時代よりこの地にあり続ける建物は、当時の風情を損なわぬようにリノベーションされ、東京さぬき倶楽部の別館として、今も歴史の息づく空間になっています。

東京でありつつも、ぶらりと香川に、そして明治に立ち寄ることができる「東京さぬき倶楽部」。都会の喧騒と離れて格別なひとときを満喫してみるのはいかがでしょうか。

取材・文：桑原 庸嘉子  
写真提供：東京さぬき倶楽部

### Information

東京さぬき倶楽部  
三田 1-11-9  
TEL 03-3455-5551  
<http://sanuki-club.tokyo/>



## 桜川小学校の思い出を探る 地域交流図書室桜川小学校記念コーナー

明治6年(1873)に創立された桜川小学校。121年目を迎えた平成6年(1994)に閉校式が挙行されて、間もなく四半世紀の歳月が経過しようとしています。

学校の建物はしばらく存続して、学校の歴史を物語る資料室が一部にあり、建物は地域に関連したイベントに使用されたこともありました。

その後、学校は解体されて、跡地には長岡福祉協会が運営する施設「福祉プラザさくら川」が建ちました。高齢者や障害者の施設に再生された建物内には当時の同窓会と町会からの希望を取り入れ、「桜川小学校記念コーナー」と地域図書室が開設されました。平成29年(2017)2月、卒業生、開校当時の教師、保護者たちにより「桜川の会」が開催されたのを機縁に、長岡福祉協会のご厚意で展示スペースが拡大され、さまざまな資料が展

示できるようになりました。

平成30年(2018)、白金台に港区の郷土資料館等複合施設「ゆかしの杜」が竣工しました。(郷土資料館は11月開設予定)こちらでは、港区内で廃校になった多くの学校に関する資料が展示されることになっていますが、桜川小の資料については、小学校が存在していたのと同じ場所にある「桜川小学校記念コーナー」で展示されています。展示されている資料は一部ですが、創立以後の写真や学童疎開時の資料などがあります。

また当時、小学校校庭に植樹された桜の木は、いまま敷地内で美しい桜の花を咲かせています。桜の木と当時の思い出に会いに、是非一度ご来室ください。

取材・写真・文：米原 剛



エレベーターで2階に降りると目の前にあるのが「桜川小学校記念コーナー」



記念コーナーを訪れた昭和29年(1954)卒業の皆さん。記念コーナーに展示されるパネルや思い出の品々が話弾む

### Information

- 桜川小学校の資料についてのお問い合わせ  
杉原俊雄(昭和29年/1954年卒業)  
TEL 03-3431-2461
- 資料室に訪問の際は「福祉プラザさくら川」1階受付にて、その旨をお伝えください。  
TEL 03-3433-0180

資料提供：桜川の会 露木隆(昭和37年/1962年卒業、新橋五・六丁目町会会長)、三宅保子、杉原俊雄

Attention / 古い写真や資料など、お手元に桜川小学校に関連する資料をお持ちでしたら、ご一報ください。



今回は虎ノ門いきいきプラザがこの6月より来年3月まで月1回、全10回の予定で開かれている「認知症虎スクール」をご紹介します。

取材・文・写真：米原 剛

## 「認知症虎スクール」は認知症に関する知識の習得、 予防運動などを行う講座です

- あらゆる質問や相談を受け付ける時間が設けられています。
- 場 所：2階トレーニングルーム、または多目的室 ※途中参加可
- 講 師：東京都済生会病院 理学療法士・国枝洋太先生
- 同時開催：虎deオレンジカフェ (芝地区高齢者相談センター主催) ※出入り自由



国枝洋太先生

- 日程は毎月いずれかの月曜日、午後の1時間半程度を予定しています。
- テーマは以下の通りです。
- 第1回 6月11日 「認知症について」(終了)
- 第2回 7月23日 「認知症の症状」(終了)
- 第3回 8月27日 「認知症の予防」(終了)
- 第4回 9月24日 「トレーニングの紹介」
- 第5回 10月15日 「食事メニューのチョイス」
- 第6回 11月19日 「気になる症状がある時の相談方法」(予定)
- 第7回 12月17日 「認知症の人が考えていること」(予定)
- 第8回 1月16日 「認知症の薬物療法」(予定) ※連休の都合で水曜日開催になります
- 第9回 2月(未定) 「認知症の人との接し方」(予定)
- 第10回 3月(未定) 「認知症の人やご家族が利用できる支援」(予定)



虎スクールは毎回テーマに沿った講義が行われる

- 区民の方ならどなたでも、無料で参加可能です。受付は当日行います。
- 皆さんも継続的に「認知症虎スクール」に参加することで、予防効果&知識を高めてみませんか。

なお、神明いきいきプラザでは、港区介護予防事業「頭とからだの体操講座」を、平成25年度から毎週木曜日(14:00~15:30)に継続して行っています。



音読・簡単な計算・数字版で脳を活性化(神明)



虎スクールの脳の活性化体操



頭とからだの体操講座「ドリルによって」(神明)



頭とからだの体操講座「スタッフと体操」(神明)

### Information

芝地区のいきいきプラザ3館では、このほかにも認知症予防に役立つさまざまな講座が用意されています。ぜひ、各館にご相談ください。

- 三田いきいきプラザ  
芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
- 神明いきいきプラザ(プラザ神明)  
浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
- 虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)  
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941



●写真・資料提供 指定管理者：百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

# 芝パークホテル

## 「バー フィフティーン」

70年の歴史とともに、古き良き時代、そしてこれからも ~Old Times Martini~

芝パークホテルは、東京タワーや増上寺にほど近い閑静な芝大門エリアに昭和23年(1948)に創業し、今年開業70年を迎えました。

当初は外国貿易使節団ホテルとして運営されており、そのため、創業時より数多くの外国客が宿泊しています。創業以来、変わらぬポリシーが“Home away from home”。異国の地から東京への旅行中のお客さまに“まるで自分の家にいるよう”に過ごしていただきたいという思いが込められています。

芝パークホテルには、昭和31年(1956)のニュージーランド学生選抜ラグビーチームが宿泊したことを皮切りに、オックスフォード大学やケンブリッジ大学といった有名大学、スコットランド、フランス、アイルランド、そしてニュージーランド代表である『オールブラックス』といった世界各国の代表チームが宿泊しており、ラグビーとは縁が深いのも特徴です。

そんなラグビーとの縁にちなんで名づけられたのが、ホテル内にある『バー フィフティーン』。34年の歴史を持つ、都内有数のクラシックバーです。そして現在、70周年を記念したオリジナルカクテルを飲むことができます。

バー フィフティーン支配人である吉永浩太郎さんとマーケティング部長の松原祐子さんご協力のもと、今回は「バー フィフティーン」のヘッドバーテンダー上野恵一さんにお話を伺いながら、「バー フィフティーン」のメニューより、70th Anniversaryオリジナルカクテルをお披露目していただきました。

「『Old Times Martini』は、70th Anniversaryのオリジナルカクテルです。由緒がありカクテルの王様と言われているマティーニからインスパイアされ、当店ならではのカクテルを創作致しました。カクテル名は、芝パークホテル70年の歴史とともに古き良きバーのあり方を楽しんでいただきたいという思いから『Old Times Martini』と付けました。



バー フィフティーンヘッドバーテンダーである上野恵一さん

ポイント日本ならではの素材である昆布茶を使ったこと。奥ゆかしい味わいに仕上がっています」

ジンには7種類のボタニカル原料が使用されている国産のプレミアムジンを使用し、そのジンに昆布茶など和テイストを組み合わせています。このオリジナルカクテルは海外のお客さまからも喜ばれています。



当時の名残が残るラゲーマンのブロンズ像。店内にはサイン入りラグビーボールなど、代表にちなんだグッズも飾られる



バーにある“なかなか入りにくい”イメージについて質問したところ、「たとえば食前でも食後でも、お時間はお客さまのご気分に合わせて、自由に訪れていただければと思います。できればカウンターにお掛けいただくことをお勧めします。バーはお酒を楽しむだけでなく、その場の雰囲気とバーテンダーとの会話も楽しんでいただきたいですね」と上野さん。バーでの過ごし方として、会話や時間を楽しむこと、そんなエンターテイメント空間としての過ごし方も提案していただけます。

「お客さまからはスタンダードなカクテルに加えて、(その場で創作する)オリジナルカクテルのご注文もあります。そのときはお客さまの背景なども考えて作らせていただきます。お客さまから『美味しい』という言葉がいただけることが、わたしの仕事の上での最高のお給料です」

芝パークホテルにある「古き良き時代」と、そして「これからも」続く歴史。70年の月日があるからこそ、上野さんには「ぜひ、多くの若い年齢のお客さまに足を運んで欲しい」という思いがあるのです。クラシックさ、そして新鮮さをも兼ね備えた「バー フィフティーン」のシーンは、これからもよりいっそう広がりを見せていくのだろうと感じました。

取材・文: 桑原 庸嘉子



上)国産プレミアムジンのカクテル「Old Times Martini」右)材料と水をバー・スプーンで手早くかき混ぜるカクテルの技法「ステア」で作られる



右)コースターはオープン時から変わらぬデザインのものが使われる下)昔ながらのクラシックな設えの店内は雰囲気たっぷり。TVドラマの舞台でも利用されるほど



### Information

芝パークホテル  
芝公園 1-5-10  
TEL 03-3433-4141 (大代表)  
<https://www.shibaparkhotel.com/>

バー フィフティーン (別館1階)  
【月~金】18:00 ~ 23:30 (23:00 L.O.)  
【土・日・祝日】定休  
TEL 03-5470-7545 (直通)

## 町会・自治会トピックス【特別編】

### 芝金杉町会

「江戸っ子」のまち 芝金杉町会

芝金杉町会は現在の芝一丁目の全域と芝二丁目の一部で構成されています。このエリアは、江戸時代に漁師町として発展し、町内には多くの漁師が住んでいました。その影響で魚から取れる「油」が豊富にあり、船が金杉橋に着いたあと、その「油」を燃料にした「灯り」を用いて芝大神宮まで向かう道を照らしました。この風習から現在も「提灯講」が町会で行われています。伝統ある「江戸っ子」のまちは、行事を通して歴史をいまに伝えていきます。

だらだら祭りに欠かせない「町会神輿」

芝金杉町会のお神輿の歴史は長く、昭和9年(1934)に会員からお金を集め、当時では家2軒が建つほどの金額をかけて制作されました。地域の象徴、コミュニティ参加のきっかけとして活躍したお神輿も、長い年月の経過で老朽化が進み、今年度に修繕を行いました\*。なるべく早い段階で若手に継承していきたいという思いからです。金めっきや漆塗りを行ったお神輿は新品のような輝きを取り戻しました。

2年に一度、「氏子町会」が連合渡御を行う際

には、担ぎ手として町会からも男女総勢約80名が集まります。次回の連合渡御は来年の9月に開催される「だらだら祭り」です。だらだら祭りは芝大神宮で開催され、そのクライマックスともいえるのが神輿連合渡御。芝金杉町会のほか、近隣の15町会が参加し、渡御を行います。掉尾を飾る芝金杉町会神輿の勇壮な舞上げを是非ご覧ください。

相談役 宮本義昭さん

町会員の減少などから平成14年(2002)に当時の芝金杉町会のほか、芝一丁目新友会、金三親和会、金四親生自治会、金浜親睦会の五か町会が合併し、現在の町会の形になりました。班という形でそれぞれの町会の名残を残し、将来も長く町会が存在していける形を模索し、現在に至ります。

\*一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業による宝くじの助成金を受け、芝金杉町会が神輿の修繕を行いました。コミュニティ助成事業は、コミュニティ活動の促進と健全な発展を図るとともに、宝くじの社会貢献広報を目的としています。



副会長 富岡和夫さん

芝金杉町会の歴史は古く、「提灯講」は約350年前から伝わります。以前は毎月19日に行っていましたが、現在は年に一回、9月19日に行われています。当日は芝大神宮と芝金杉町会の歴史に関するお話を宮司から聞くことができます。

会長 前川節雄さん

今の町会の課題は、ワンルームマンションの住民に町会へどう加入してもらうか、ということです。開発の中で所有者が次々に代わってしまうため、町会としても関わり方が難しいと感じています。新しいマンションの住民の方にもお祭りなどを通じて町会に参加してもらえるよう活動をしていきます。



### 町会名が変わりました!

#### おなりもんむつわ <<御成門六和町会>>

御成門といえば、徳川将軍家専用の参詣門として増上寺敷地内に設置されていた門の名称です。現在は都営三田線の駅名として使用されているほか、御成門交差点や区立御成門小学校・中学校など、数多くの施設に「御成門」がついています。町名ではないものの、日比谷通りを挟んだ新橋6丁目、西新橋3丁目周辺を指す、もっともわかりやすい表記となっています。

今年6月、御成門界隈の町会である六和町会が「御成門六和町会」に町会名を変更しました。「より馴染みやすく、地域の人に愛される町会になりたい」と馬場恵夫会長は言います。これを機に町会が作成した手ぬぐいには新しい町会のマークが染められています。町会名にちなんだ6つの和(輪)がモチーフです。

地域の財産「御成門」を町会名に入れて再出発を果たした「御成門六和町会」、ぜひお見知りおきを。



7月26日、27日に開催された第23回新橋こいめ祭にて、芝地区総合支所地域事業「芝BeeBee'sプロジェクト」で採れたはちみつを使用し、はちみつレモン水とはちみつかき氷を提供していただきました。連日多くのお客さんに足を運んでいただき、二日間ではちみつレモン水約60杯、はちみつかき氷約200杯を売り上げました!

お祭りといえばやはりかき氷が大人気。3年前から手動のかき氷機を新調したので、ふわふわのかき氷ができるのも人気の秘密です。またプースの『華家』は、かつて新橋仲通りにあった甘味処の名前をお借りしています。かつての名店を復元したいという意味も込めています。

### ～大久保会長から一言～

昨年に引き続き、芝産のはちみつを使わせていただきました。今年はちょっとしたハプニングもありましたが、無事に使用することができ、また皆さん喜んでいただけて、安心しました。芝ではちみつが採れることを知らない人も多く、来場者に説明すると、皆さん大変驚いておられました。今年も好評だったので、来年もぜひ芝産はちみつを使用したいと考えております。



## 港区にようこそ!



港区の魅力やブランドを国内外に広く発信し、世界中から人を呼び込み、賑わいを創出するため策定した「港区シティプロモーション戦略」。戦略に掲げる6つの都市イメージを表すイメージカラーで染め上げた「のれん」をモチーフにしたロゴマークが決まりました。風に揺れて3つに割れた様子は港区の頭文字であるMの形を表現しました。

### 6つの都市イメージ

- 国内外に開かれ多様性を受け入れる都市
- 文化芸術の彩りと歴史が息づく都市
- 安全で安心できる都市
- アクセシビリティに富んだ便利な都市
- 街並みの美しさで魅了する都市
- 温かい優しさと活気に包まれる都市

# 区立芝公園で 9月30日(日)

## 防災体験しよう!!

午前 9:30~11:00 入退場自由

会場 区立芝公園  
芝公園4-8-4

事前申込不要

参加者記念品あり

参加費無料



### 防災スタンプラリー

訓練に参加してスタンプを集めよう!いざという時に役立つ防災グッズなどがもらえるよ。

### 大声コンテスト開催

災害発生時にまわりに助けを呼んだり、危険を知らせるあなたの声。その大きさを測定します。



### 備蓄食の試食

長期保存可能なカレーやビスケットなど、色々な備蓄食を試食してみよう!



### ~そのほか楽しい防災体験がいっぱい~

災害用伝言ダイヤル体験、簡易トイレ組立体験、地震体験 など



血栓予防体操



スタンドパイプ取扱体験

### お問い合わせ

芝地区総合支所協働推進課協働推進係

TEL 03-3578-3124

芝地区 防災訓練

検索

## 芝の家・ちゃぶ台日誌 夏編

どなたでも自由に入出りできるまちの交流拠点「芝の家」。近所の方から遠方の方、赤ちゃんから学生、シニア世代の方まで、多彩な方々が立ち寄り、それぞれの時間を過ごしています。夏の「芝の家」を覗いてみました。



昔懐かしい佇まいの外観、縁側、お茶とコーヒーなどを用意したコミュニティ喫茶(無料)や駄菓子販売する屋台もあります。縁側は外と中をつなぐ居心地の良い空間。休憩したり、遊びに、おしゃべりに花が咲きます。

8月は、春先に種を蒔いて育てた「藍の葉」を使って生葉染めの実験。小さいお子さんから大人まで多世代が輪になって、葉を摘んだり、液を抽出したり、ワイワイと季節の手しごとを楽しみました。



折り紙や手芸、消しゴムスタンプでのオリジナルマーク作成など、室内ではいろいろな手しごとが日々行われています。



### Information

芝の家  
芝 3-26-10、TEL : 03-3453-0474  
開室日時：火・木曜日 / 11:00~16:00、  
水・金・土曜日 / 12:00~17:00  
休：日・月曜日、祝日

買い物するなら地元の商店街で

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています  
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/田岡恵美/竹田和行/千葉みな子/町田明夫/森明/森田友子/米原剛(五十音順 敬称略)  
●今後の発行スケジュールは次の通りです  
2018.12(第49号)、2019.3(第50号)、2019.6(第51号)、2019.9(第52号) ※各号発行月の20日ごろ

Going shopping? Visit our local shopping streets.

### 芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1~3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています

### 芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご利用ください。



1~20は旧町名由来板の設置場所

- 1 日新窟 → P1
- 2 ハンガリー大使館 → P2
- 3 新橋玉木屋本店 → P3
- 4 東京さぬき倶楽部 → P4
- 5 福祉プラザさくら川 → P5
- 6 三田いきいきプラザ → P4・5
- 7 神明いきいきプラザ → P4・5
- 8 虎ノ門いきいきプラザ → P4・5
- 9 芝パークホテル → P6
- 10 芝の家 → P8
- 11 区立芝公園 → P8

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所1階)  
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>